

博士(教育学)

Doctor of Philosophy in Education

学位授与の方針

博士(教育学)の学位を授与するにあたり、以下の方針を掲げています。

学際的・複合的な学問領域としてのヒューマン・ケア科学において、人間の教育、とりわけ人々の共生のための教育の実現に関わる独創的で優れた研究テーマを設定し、博士の学位に相応しい研究成果を有し、論理的、科学的、系統的に研究を進め、博士論文としての体裁が整っていること。また、研究成果が教育の現代的課題の理解と解決に貢献することが期待されること。さらに、教師、臨床心理士、社会調査士、社会福祉士、養護教諭、保育士、保健師、看護師などの場合には、教育に関わる支援を行う高度な専門的技術力を練磨し、共生社会の実現に資する実践能力を有すると認められること。

大学院学則に規定する課程の目的を充足した上で、次の能力を有することがヒューマン・ケア科学専攻内規に示した審査会において認定されること。

■共生教育の理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思と能力及び教育能力

■教育学の各専門領域における課題を理解し、課題解決に向けて関係学術領域と連携を図る能力

■研究者、教育者、または高度専門職業人としての研究能力、教育能力、実践能力と高い倫理観

■研究チームや組織の一員としての役割を明確に認識し、他職種や他研究領域の研究者、関係者と協働する能力と後進の指導力

■自身の研究内容を他の研究領域の者にも適切に説明できるプレゼンテーション能力と適切な質疑応答ができるコミュニケーション能力

教育課程編成・実施の方針

■必修科目としてヒューマン・ケア科学基礎論、ヒューマン・ケア科学方法論がそれぞれ3単位、計6単位が設定され、ヒューマン・ケアに関連する専門領域の学問的基礎、理論、概念、課題、さらにそれらの課題解決のための専門領域のアプローチ・方法論に関する基本的な知識を理解し、ヒューマン・ケア科学の基礎を修得します。またこれにより学際的な研究交流を可能にするコミュニケーション能力をも習得します。

■これらの学修により、幼児、児童生徒、大人、高齢者、障害を有する人々、外国人児童生徒などあらゆる人々の教育と共生におけるケアと現代的課題解決、支援のための研究と教育のための基礎・素養、学際的アプローチを可能にします。

■専門科目として6単位以上が設定されています。演習においては、教育学を構成する複数の関連する学問領域を理解し、人間の教育と支援の前提となる全人的理解、援助方法の策定と介入および社会制度・政策論をクリティークするまでの一連の研究過程について、問題解決に必要な高度で専門的な理論と実践方法を修得し、創造性及び自己推進力、研究能力、教育能力を習得します。特別研究においては、研究に関わる理論・方法論の検討、データ解析を進め、学位論文を作成できる高度な研究能力を獲得します。

■大学院共通科目については、研究者、大学教員、高度専門職業人としての倫理観や幅広い素養を習得する科目として履修を強く勧めています。

達成度評価

■指導教員のみならず複数の副指導教員での教育体制を確保し、丁寧で質の高い指導を計画的に行います。

■博士(教育学)では、共生やケア、支援の理念に基づく社会貢献性の高い成果を発信する明確な意思やその能力及び教育能力や、教育や共生教育に関連する専門領域における課題の理解及び課題解決に向けて関係学術領域と連携を図ることができる能力及び教育能力、研究能力等の達成状況を確認します。

■履修科目やその単位数、学位論文の進捗状況、障害となっている事項、投稿論文の進捗状況等を確認し、その達成状況を教員と学生が共有するとともに、これらに対して教員が適切な指導を行います。またこれらを通じて、コミュニケーション能力、研究倫理観、学際的視点の深度等も確認します。

■3月ごとに学修指導を実施します。これにより学生は、研究の進捗状況や今後実施すべき内容等について指導教員及び副指導教員と十分な意思疎通を図り、研究を計画的・段階的に進めることが可能となります。

学位授与の体制など

■3年間で課程修了(学位授与)をめざし、標準学修課程フローチャートにより計画的・継続的に複数の教員から指導を受ける体制を整えています。学生及び教員には、表1に示すように標準学修課程について専攻内規集(冊子)を配布し、学生への周知徹底を図り、学位取得に向けた意識の向上を図っています。

■指導経過は3月ごとに学修指導記録が学生から提出され、専攻教育会議において各学生の研究進捗状況が確認されます。

■学位論文審査会までに、中間審査会と予備審査会があります(必須)。

■中間審査会においては学位論文のテーマと全体計画及び研究内容に関する論理一貫性等が確認されます。その際、他の研究分野の教員から異なる視点での指導がなされます。また異分野の学生からの質問、意見、コメントも寄せられ、学生間での討論、他分野の学生の意見を参考にできるようになっています。

■予備審査会では、学位論文としての質や学術論文の投稿状況について確認がなされます。審査会には他の研究分野の副査も参加します。

■学位論文審査会では予備審査会の主査・副査に加えて、他専攻から副査を追加し、さらに学際的な視点からの審査が実施されます。

学年	スケジュール
1年次	学位論文テーマの決定
	指導教員・副指導教員の決定
	共通科目履修による学際性の涵養 TA等による指導力・教育力の修得 3月ごとの学修指導
2年次	中間審査
	研究内容の審査 発表能力の修得
	他研究への吟味的評価 学会発表の実施・学会誌への投稿 3月ごとの学修指導
3年次	学会誌への投稿
	予備論文の提出と予備審査
	学位論文の提出と学位論文審査 成果発表会にて学位論文のプレゼンテーション

表1 ヒューマン・ケア科学専攻の標準学修課程